

## 2. 事業の概要と成果

### (1) 上位目標の達成度

#### 上位目標：

「ミグワニ県において、教育協力政策に掲げられた重点分野「School for All」モデルの実践をとおして、住民参加による教育の質的向上を通じた初等教育の普及に貢献する」

#### 上位目標の達成度：

上位目標の実現につながる以下の成果が確認できた。

・ 県・教育区・区・準区レベルの行政官との定期的な協議ならびに課題共有と本事業の視察等を通じて、行政官の地域の課題認識とその対処につながる行政官の取り組みが確認された。

・ 教員エイズ教育研修の全課程を修了したエイズを包括的に教えることができる教員に対しフォローアップを実施し、教員によるエイズ公開授業が7回実施された。これら教員によってエイズ授業が適正に実践された事例を確認した。

・ 10校で実施した早期妊娠予防研修に計756名の教員と保護者が参加し、早期性交渉・妊娠など子どものリスクを地域の課題と同意し、うち9校で当会専門家が子どもにコンドームを教えることに同意した。研修後に子ども保健トークを実施し、2,015名の子どもが、思春期の身体と心の変化から早期性交渉にともなうリスクに関する知識と予防行動につながる意識形成のきっかけとなった。

・ 教員エイズ教育研修の全課程を修了した教員のうち希望者に集合型の早期妊娠予防研修を5教育区で計6回実施し、計160名の教員が修了した。早期性交渉・妊娠など子どものリスクを大人の課題と同意し、対処法について教員間で話し合われる事例が確認できた。

・ 保護者参加で3校3教室が完成した。また、運営能力向上研修によって、本事業実施前と実施後を比較して保護者の学校運営への参加と学校運営の質的な向上を確認した。

・ 教育官・校長・保護者が教室の老朽や土壌浸食によって崩壊の危険のある教室を課題と認識し、4校で保護者参加による教室補修・土壌保全のためのリテンド壁建設を実施した。

・ 基礎保健研修修了者の中からエイズ問題への対処意識が高い人材を選抜し、エイズ・リーダー研修を実施した。計894名の参加者が、住民へエイズ問題をわかりやすく的確に教える教授法を学んだ。

・ 106名のエイズ・リーダーによる学習会が実施され、計1,524名の住民がこれらの学習会に参加し、標準的なエイズ知識を得た。

・ エイズ・リーダー研修後、知識を住民に伝えることができているか、

	<p>住民の状況を考慮しつつ慎重に教えることができているかを確認し、更なる知識共有の内発的動機を高めるフォローアップ会議を実施し、11 準区から 206 名が参加した。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p><b>イ. 事業形成・評価会議</b></p> <p>1 年度は、行政官との関係構築のために、事業説明を通して活動への理解を得ることや、活動実施のための合意形成を目的とした協議を中心におこなってきた。2 年度は、定期的な報告・課題の共有をおこないつつ、行政官の地域の課題への理解を深めることにつながる行政官による当事業の視察や協議の実施に努めた。</p> <p>3 年度は、100 回の県・教育区・区・準区レベルの行政官訪問をおこない、延べ 149 名と事業の協議をおこなった。</p> <p><b>ロ. 質の高い教育の実現</b></p> <p>特定校での早期妊娠予防研修は、2 年度に教育官から、研修実施ニーズのある学校が挙げられ、10 校で実施した。3 年度は 5 校を予定していたが、研修の有効性を評価した教育官から追加実施の提起があり 10 校で実施した。研修後に子ども保健トークを実施し、2,084 名の子どもが参加した。</p> <p>集合型の早期妊娠予防研修を 5 教育区で計 6 回実施し、計 380 名の教員が参加した。</p> <p>環境活動と子どもの健康に関する集合型研修および、教員対象の特定校での研修は、小学校の深刻な土壌浸食への保全活動への優先的な取り組みの必要性から、3 年度の環境活動の重点を保護者対象の活動に置いたため、教員研修の実施には至らなかった。</p> <p>教員エイズ研修を修了した教員によるエイズ公開授業を 7 校で実施し、当会専門家が助言者として参加した。エイズ子ども発表会は、1 校で実施し、11 名の教員及び子ども 302 名が参加した。</p> <p><b>ハ. 住民参加による学習環境の形成</b></p> <p>1 年度及び 2 年度に実施した教室建設、教室補修、リテンド壁建設は全ての作業が完了した。3 年度の施設拡充の実施校は、教室建設 3 校、教室補修 8 校、リテンド壁建設による土壌保全 4 校となった。</p> <p>保護者による環境活動は、新たに 4 校でリテンド壁建設を実施した。また、2 年度から継続して環境活動を行った 2 校を含む 5 校で植樹や草地化などの環境活動を実施した。</p> <p>水タンクは、小学校 1 校へ供与した。また、これまでに水タンクを供与した 8 校で保護者対象の水と保健に関する学習会を実施した。</p> <p>トイレ建設は、特定幼稚園での保健活動を実施した 4 幼稚園の中から、</p>

	<p>トイレ整備が乏しい1幼稚園にて保護者参加による建設活動を実施した。さらに2年度にトイレ建設が完了しなかった2幼稚園の活動を、3年度も継続した。</p> <p>学校保健においては、保護者対象の早期妊娠予防研修を、教員研修を実施した10校全てで実施した。</p> <p>幼稚園保健では、3年度で新たに保健活動を始める4幼稚園において、幼稚園教師・保護者代表・校長の3者を招き関係者会議を実施した。また、4幼稚園にて、特定幼稚園での保護者対象の保健学習会を実施した。</p> <p><b>二. 地域に開かれた学校の実践</b></p> <p>地域リーダー育成については、2年度に実施した住民代表対象の基礎保健研修の修了者の中からエイズ問題への対処意識が高い人材を選抜し、33準区においてエイズ・リーダー研修を実施した。</p> <p>また、研修を受けたエイズ・リーダーによる住民対象の学習会が実施され、計1,524名の住民が参加した。</p> <p>エイズ・リーダー研修後、フォローアップ会議を実施し、11準区から206名が参加した。</p> <p>※各活動の実施詳細に関しては、別紙の「日本NGO連携無償資金協力事業詳細報告書」を参照。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p><b>1. 学習機会としての効果</b></p> <p>別紙「日本NGO連携無償資金協力事業詳細報告書」の2. 延べ裨益者数・研修指標モニタリングを参照。</p> <p><b>2. 活動ごとの効果</b></p> <p><b>3-イ. 事業形成・評価会議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題理解と対処意識が向上する県開発委員会関係者 【3年度目標：20人】【3年度実績：0人】</li> <li>・課題理解と対処意識が向上する郡レベル行政官 【3年度目標：15人】【3年度実績：0人】</li> <li>・課題理解と対処方針が改善する区レベル行政官 【3年度目標：50人】【3年度実績：47人】</li> <li>・課題理解と対処意識が向上する教育官 【3年度目標：6人】【3年度実績：61人】</li> <li>・課題理解と対処方針が改善する教育関係者 【3年度目標：50人】【3年度実績：0人】</li> </ul> <p><b>3-ロ. 質の高い教育の実現</b></p> <p>◆小学校</p>

- ・ 早期妊娠予防研修に関する知識を教授できる教員  
【3年度目標：400人】【3年度実績：470人】

### 3-ハ. 住民参加による学習環境の形成

#### ◆教室建設

【3年度目標：4教室】【3年度実績：3教室の建設活動を完了】

- ・ 学校運営能力・建設技術が向上する延べ保護者数  
【3年度目標：3,200人】【3年度実績：2,507人】

#### ◆教室構造補修

- ・ 教室構造補修数

【3年度目標：6校18教室】【3年度実績：8校18教室】

- ・ 学校運営能力・建設技能が向上する延べ保護者数  
【3年度目標：5,400人】【3年度実績：8,076人】

#### ◆水タンクを設置する学校

【3年度目標：5校】【3年度実績：1校】

- ・ 学校運営能力・保健知識が向上する延べ保護者数  
【3年度目標：750人】【3年度実績：1,329人】

#### ◆トイレ建設

- ・ トイレを設置する幼稚園数

【3年度目標：5園5棟】【3年度実績：1園1棟】

#### ◆環境活動

- ・ 環境活動を実施する学校数

【3年度目標：5校】【3年度実績：5校（内3校は2年度の継続）】

- ・ 学校運営能力・環境知識が向上する保護者数

【3年度目標：1,750人】【3年度実績：3,732人（内1,280人は2年度からの継続活動参加者）】

#### ◆保健・エイズ学習会

- ・ 保健・エイズ学習会を実施する学校数

【3年度目標：10校】【3年度実績：7校】

#### ◆早期妊娠予防研修

- ・ 早期妊娠予防研修を実施する学校数

【3年度目標：10校】【3年度実績：10校】

- ・ 早期妊娠予防研修で裨益する保護者数

【3年度目標：200人】【3年度実績：707人】

- ・ 早期妊娠予防研修で裨益する生徒数

【3年度目標：400人】【3年度実績：2,015人】

#### ◆幼稚園保健学習会

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園保健学習会を実施する幼稚園数 【3年度目標：10園】【3年度実績：4園】</li> <li>・ 保健知識・技能が向上する保護者数 【3年度目標：5,000人】【3年度実績：1,966人】</li> </ul> <p><b>3-2. 地域に開かれた学校の実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 住民へのエイズ・リーダー研修（集合型研修）修了者数 【3年度目標：600人】【3年度実績：894人】</li> <li>◆ 住民エイズ・リーダーによるエイズ学習会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エイズ学習会を実施する住民エイズ・リーダー数 【3年度目標：120人】【3年度実績：106人】</li> <li>・ 住民エイズ・リーダーからエイズを学ぶ住民数 【3年度目標：1,200人】【3年度実績：1,524人】</li> </ul> </li> <li>◆ エイズ・リーダー研修のフォローアップ会議の参加者数 【3年度目標：0人】【3年度実績：206人】</li> </ul>
(4) 持続発展性	<p>本事業は、活動に参加する関係者が、その参加をとおして獲得する知識・技能・意識・視点・態度・成功体験などによって、その後も自律的に課題へ取り組む状況を形成するよう様々な工夫をしている。対象地域の行政官・教員・住民といった様々な立場の関係者が、①子どものための教育の質の向上につながる知識・技能を得ること、②教育の質の向上につながる地域の改善すべき課題への視点を向上させること、③具体的な課題への取り組みの実践を重ね住民による自律的な活動へとつなげることを、3年間の事業期間内の活動で段階を踏みながら実施することにより、事業終了後の持続発展性へと繋がると考える。1年度および2年度の事業は、特に①と②の住民への知識や技能の伝達により課題への認識を深めることに重点をおいた活動を形成した。3年度はこれまでの活動で築いた住民の知識と意識をもとに、特に③の実践による課題への取り組みを促進することを目的とした活動を行なった。</p> <p>教室建設をはじめとする施設拡充事業については、本事業終了後でも保護者自身で建設活動の継続および管理ができるようになることを目的に、運営能力向上のための研修ならびに建設活動を通じた運営能力の実践を行なった。具体的な成果として、1年度に教室を建設した3校は、それぞれ1教室を自律的に新たに建設し、完成させている。また、3年度の延長期間では、教室補修を経験した3校に資材を供与したところ最低限の当会の助言のもとに2か月間で計4教室の補修を保護者が自律的に完成させた。持続発展性が顕著に発現した事例である。</p> <p>教員向け研修では、教員が55歳までの終身雇用であり、公立小学校が</p>

存続することによって、日常の子どもへの授業を通じて効果の継続を見込んでいる。地域住民向けの保健研修では、3年度にエイズ・リーダー研修にて「住民に知識を伝える」教授法を身に着けることと、住民に伝える部分の実践活動として研修修了者による学習会の実施を活動に組み込むことで、その持続性の確保に努めた。106人の住民エイズ・リーダーが、当会専門家の参与観察のなかで1,524人の住民にエイズを適切に教えることができた。また、これら住民エイズ・リーダーが自律的にエイズを教えていることも数多く確認している。なお、県保健局の要請により、これら修了者リストを提出しており、有効なリソースとして活用する意向である。